

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入) 平成 24 年度

事業所番号	2772403263		
法人名	有限会社 杉の里		
事業所名	グループホーム杉の里		
所在地	大阪府枚方市杉4607		
自己評価作成日	平成 24年 12月 19日	評価結果市町村受理日	平成 25年 2月 22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2772403263-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosvoCd=2772403263-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人大阪府社会福祉協議会 福祉サービス第三者評価センター		
所在地	大阪市中央区中寺1丁目1-54 大阪社会福祉指導センター内		
訪問調査日	平成 25年 1月 17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者一人一人の個性や意志を尊重し出来る事をして頂ける様に声がけ促しをしている。施設内敷地が広い為、気候の良い時期には外でおやつ・食事(バーベキュー)などして頂いたりしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は木々に囲まれた自然豊かな立地に立つ一軒家で、庭は広く開放的でゆったりとしたスペースの中、利用者はゆっくりと過ごせる環境にあります。就任間もない新しい管理者のもとで、地域密着型の理念を再認識し、ケアの質の向上に向けて努力しているホームです。職員はホームの理念を理解し、「利用者が安心して落ち着いて暮らせる家」を目指した支援を実践しています。利用者、職員と全体的に笑顔が多く、家庭的な雰囲気は家族にも喜ばれています。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共に生きるという理念をもって認知症その他の障害があっても楽しく暮らせるように取り組み実践に繋げる努力をしている。	ホームの理念は、月1回のミーティングや研修で確認し、全職員で共有しています。「いつも笑顔で思いやりを持って接し、自立と生きがいにつなげた支援を行います。ゆとりと安らぎ、そして笑顔のあるその人らしい生活を送っていただけるよう努めます」をパンフレットにも掲載しています。職員は「利用者が笑顔で自由に安心して暮らせる」を目標として実践につなげています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	施設ではなくホーム（在宅サービス）ということで、閉鎖的ではなく開放的に、家族、近隣住民に理解して頂き、近隣の催し等に出来るだけ参加している。	事業所は山の傾斜地に建っており、木々の木立が多い自然豊かな環境にあります。近隣には民家が少ないため地域住民との交流や自治会への入会はありませんが、自治会長の計らいにより、地域での催しや、独居高齢者の食事会への参加について声かけがあります。年に1回、地域にある特養やケアハウス等とも交流を図っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を地域の人々に向けて活かしている	地域が主催している一人暮らしの老人会などの参加等行っている。そのなかで地域参加者に対して発言することや出来ることへの協力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の内容を閲覧できるようにしているとともに、月1回あるミーティングで特筆すべき事柄においては取り上げ、意見交換している。	運営推進会議は2カ月に1回開催しています。会議で出された意見は職員会議で報告し、職員間で話し合い、サービスの向上に活かしています。会議録は、ファイルに入れてスタッフルームの机上に設置しており、全職員が確認できるようにしています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	法人指導に関しては、通達だけでは、理解が不十分なこともある場合には、速やかに連絡を取るか、出来るだけ出向いて直接話をするようにしている。	管理者は行政との連携を密に行い、時には出向いて、意見交換をする機会を設けています。利用者の生活状況を把握するべく、3カ月に1回担当ケースワーカーの来訪があります。担当者にはホームの課題について相談し、解決方法のアドバイスを得るなど、協力関係を築いています。事故報告や外部評価結果の報告を行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全員が、禁止の対象となる具体的な内容全てを理解しているとはいえないが、自然と身体拘束をしないケアが行えている。また、事例はないが緊急やむを得ない場合等の家族の同意をとる書面及び説明は、入居時に行っているととともに、職員にも説明している。	原則身体拘束は行わないケアに取り組んでいます。やむを得ない場合には家族に説明し、同意を得るための書式を作成しています。全職員の共通認識として、全体ミーティング時に身体拘束や虐待について研修を行っています。管理者は職員に個人面談を行い、面談時に身体拘束の正しい理解ができるように努めています。玄関の鍵は、日中開錠しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員と全利用者の良好なサービス及び関係が保たれていると考えている。法令の知識においては、不十分なところもあるが、何が虐待にあたるのかを理解できるよう研修等を行っている。利用者の外傷及び介護方法においては、どの職員からも情報提供できる、風通しの良いホームとなっている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居相談、介護相談時などに、知りえた情報・知識を必要な時に情報提供している。内外での研修にて、理解をし実践できるように努力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	その都度、十分な説明を行って、納得を得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者の意見、変化また家族様来訪の際などニーズを探り、運営に反映させている。外部者に関しては、介護相談員及び運営推進会議のメンバーとなっている。</p>	<p>利用者、家族の意見や苦情をサービスに反映させるため、意見箱を玄関と1階・2階のリビングに設置しています。管理者は家族からの意見や、苦情は即時に対応し、ミーティングや運営推進会議で出た意見は真摯に受けとめ、運営に反映できるように取り組んでいます。ホーム便り「杉の里だより」を発行し、ホームの予定や生活状況を伝えています。しかし、家族から意見や要望が十分に聞けていない状況があり、今後は家族アンケートの実施を行う方向で検討しています。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月1回あるミーティングの他に朝の申し送り時に職員が気軽に意見を出せるような雰囲気にし、また耳を傾けるようにして要望に応じる努力をしている。</p>	<p>管理者は職員への個人面談を実施し、職員の意見を聞く機会を設けています。月1回のミーティングで、職員が意見やアイデアを提案できるようにしています。職員間では、お互いに意見が言いやすい雰囲気です。体験入居時に事前情報が少なかった方に、職員が意見を出し合い、ケアの方向性を共通認識を図り、サービスにつなげた事例があります。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境、個人に応じた条件を提供している。またやりがいをもって働けるように適材職を心がけている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得や研修案内を事業所として奨めている。法人内自己評価表をもちいて取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括の提案により元地域のグループホームと交流を定期的に行っている。また、その意見の中でよいと思われることに関しては取り入れている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご入居時には出来る限りの情報収集を行いご本人、ご家族とのコミュニケーションを出来る限り多く取りそれぞれの意見を踏まえてケアに反映している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に関しては、特に時間をかけて、ご家族、ご本人と話し合いを設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの説明を十分に行い、その方の必要に応じて他の介護事業所の提案、紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事をしたり、洗濯物や食事準備の手伝いをして頂いたりするなかで良好な関係作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の家族の絆を大切に考え出来る限りの来訪と協力をお願いしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	葉書や電話、訪問等を歓迎している。また利用者に代わって葉書や手紙を出したり電話のダイヤルを押すこともある。	利用者の馴染みの場所や親しい方との関係が途切れないよう、支援を行っています。通院時に利用者が以前住んでいた場所を訪ね、食事をしたり、友人と会って会話を楽しんだりする方もいます。利用者の思いを聞き取り、はがきの代筆支援をすることもあります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自然と出来る交流を見守るだけでなく、時にはスタッフが中に入りグループワークやレクレーションを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	終了後に電話をかけたり、訪問することもあり、その後の経緯に関心を持って配慮している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的に、ご本人の意向を伺うとともに、何を望まれているのかを推測して介護に当たっている。	職員は日々の生活の中で、利用者の笑顔を大切にして、一人ひとりが自由に過ごせるような支援を行っています。言葉で表出できない利用者には、表情や動作から本人の思いを理解して、ケアに取り組んでいます。	職員は本人の思いや意向を聞き取っていますが、記録として残されていない状況です。聞き取った内容は、記録等に残し、職員間で共通認識のもとにして、支援ができるよう工夫されてはいかげでしょうか。



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、家族に聞き取りを行い趣味などを把握しホームででき範囲で支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態において、把握、原因解明に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回ケースカンファレンスを開催することで、状態を周知し、家族とは面会時に、医師とは受診、往診時に連携を取り、計画作成している。	職員ミーティングを月に1回開催し、ケアカンファレンスを行い、利用者の心身の状況や家族の思いを関係者で話し合い、介護計画を作成しています。利用者の状況に変化があった場合は、職員の意見を聞いて必要に応じた見直しを行っています。モニタリングは3ヵ月毎に行い、家族にも確認しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現状に則した介護計画に努めるとともに、その都度職員、入居者、家族、その他からの情報に応じて見直し、実践している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイケアサービスや訪問診療など、変化や状況、必要性に応じて柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人は心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域主催のお祭りやボランティア、有料サービスなど必要に応じ活用して支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な受診に加え利用者の状態や希望により、家族対応・ホーム対応を行い、いずれも連携、信頼関係に努めている。	かかりつけ医への受診は、家族の協力を得て行っています。緊急時は24時間対応の病院と連携ができており、提携医療機関との協力体制も構築されています。精神科医は月1回、寝たきりの利用者には月1回内科医の往診があり、希望者には週1回医師の往診が受けられる医療支援をしています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問診療時に医師・看護師に報告するのみならず、その都度必要に応じて、看護師・医師に判断を仰ぐことができる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	提携病院入院時やそれ以外の入院時においても、出来る限り面会し、情報提供や、認知症における看護師の苦勞を理解し良好な関係作りに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、緊急時も含めて、対応を図っている。職員とは相互の情報交換も密にしている。	重度化や終末期について、ホームで看取りを行う体制を整えています。しかし、今まで看取りを行った経験はない状況です。家族とは入居時に終末期の延命医療について話し合い、同意書を交わしています。緊急時や入院時の対応について職員研修を行い、職員間で情報を共有しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアル以外にも研修等で取得した技術を活かせるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	隣接する家屋がないため、緊急時の地域協力は時間的には望めないが、職員・消防・救急隊の協力体制を築くようにしている。	災害時対応マニュアルを作成し、避難訓練は年2回実施しており、うち1回は消防署の指導のもとで実施しています。災害用の備蓄は準備していませんが、冷蔵庫には4～5日分の食料を常時準備しています。	隣接する家屋が少ないこともあり、今後は火災以外の災害非常時も視野に入れて、地域と連携し、協力体制を構築する工夫が求められます。また、水や食料品等、数日分の備蓄を準備することが望まれます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個室に鍵がかかるようにしている。 プライバシーを損ねないように、訪室のドアをノックしたり、声がけ等の対応配慮を行っている。 又、排泄・入浴時の声がけ誘導にも配慮している。	プライバシー保護マニュアルを作成し、職員の研修を実施しています。職員は入職時に誓約書を交わし、退職時にも秘密保持の再認識を促しています。居室の扉には鍵をつけていますが、普段は開けている方もいて、自由に出入りができています。職員は、入室時には必ず本人に声かけを行い、一人ひとりの人格を尊重したケアを行っています。職員は入浴介助や排泄介助で、異性が実施する時は特に配慮し、言葉かけや誘導の際に利用者の思いを聞きながら、本人の気持ちを尊重した支援を行っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に話を聞いたり、日常生活から、推測したりして、自己決定できる環境作りに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レク活動をその場の状態や希望に応じて、押し付けではなく個人のペースや、その時の状況にあわせて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者の意思がない限り十分とは言えないが出来る限り、それぞれの個人の好みの服装をして頂いたり、整容・化粧等を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	同一の食事を提供しているため好き嫌いに配慮しながら、出来るだけおいしく食べて頂ける様に努力している。強制なく自然と利用者の出きることを手伝っていただいている。	食事はホームで専門の調理職員が作り、利用者の希望や行事食などもメニューに取り入れています。箸、茶碗、コップは個々に準備し、それぞれが自分のペースで楽しめるように支援しています。職員も同席して同じものを食しています。下膳や後片づけを行う方もいます。介助を必要とする方も、利用者のペースを保てるよう個別の支援を行っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事量、水分量の計測を行い、毎月一度の体重測定を介護にいかしている。食事・水分量が少ないなど、場合によっては栄養補助食品の提供をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行う以外にも、週1回の訪問歯科の先生からの指導を受けケアにいかしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄パターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表により、誘導し、尊厳保持への配慮もしている。夜間も定期的な排泄誘導している。	排泄チェック表を作成し、日中はトイレ誘導を心がけた支援を行っています。意思表示ができない方には、その日の水分量等を確認しながら、一人ひとりのペースで排泄を促し、声かけをしています。トイレに古着の切れ端を準備し、排泄の失敗時に利用者が不快感を持たないように、手早く対応ができるような配慮を行っています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事、水分量、服薬影響等に配慮し予防に努めている。又、医師に相談・指示を受けている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日を決めているが、拒否の利用者に対しては、タイミングや職員の交代などで、出来るだけ入浴して頂く様に対応している。又拒否・身体状況で入浴できなかった場合は入浴日以外でも入浴して頂いている。	入浴は個室で行い、入浴日を決めていますが、希望があれば随時対応しています。足浴は、清潔保持と血行促進を促すために毎日行っています。入浴を好まれない方にも、職員が本人の気持ちを尊重した声かけを行い、週2回は入浴日を保てるように心がけています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の睡眠の妨げにならないように、日中、休息・昼寝等を支援している。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が、薬の説明書を閲覧出来るようにし、職員から申し送り等で情報・状況を聞き、医師へ情報提供し、安全な服薬が出来るよう支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一律ではなく、個別に役割や楽しみ事を探り、楽しく暮らして頂ける様に声かけ促し努力している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望や様子から個別外出は行っているが、行きたいところや、目的のない利用者においては、喜ばれる外出計画の必要性を感じている。定期的には花見等の外出計画は実行している。又、家族との外出をして頂ける様に支援している。	ホームは住宅街から離れた場所であり、利用者の重度化に伴い外出ができていないこともあります。本人が希望する際は、ホーム周辺での散歩を実施しています。花見や紅葉等の外出計画を立てて、年3回は利用者全員で外出を楽しむ支援を行っています。重度化により、外に行けない方にも、庭先に出て、食事を楽しむなど五感を刺激した支援を心がけています。今後は家族の協力のもと、本人の希望を聞き取り、外食支援等も個別に行う方向で検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望に、応じて買い物・受診時の支払いをして頂いている。財布やお金が無くなった等の認知症からの訴えはあるが、職員が誠実に対応している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本院自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話、手紙は常時対応できるようにしている。利用者によっては、職員が電話をつないでから、利用者にわたすなどしている。		
52	19	○居心地のよい共有空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、飾り付けをしたり、利用者の作品も飾ったりしている。トイレや浴室の場所をわかりやすく表示したり、使用方法をわかりやすく表示している。	リビングの窓やベランダからは四季折々の自然の風景が楽しめます。利用者が共有空間として過ごすことの多いリビングは、広くゆったりと過ごせるようになっています。職員のアイデアで、壁に大きな鏡を設置し、台所や事務所からの死角をなくすような工夫をしています。また、廊下の壁には、利用者の書いた四季の書を貼っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で過ごされたい時は居室で、談話していただく時は、リビングに出てこれソファなどを使用し利用者同士や職員と談話されている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ馴染みの家具・備品・思い出のアルバム・仏壇などを持って来て頂ける様に家族様にお願いしている。家具等の配置もその方の動線を考慮している。	居室は、エアコン、クローゼット、洗面台などが備えてあり、室温調整は職員が個別に対応しています。ベッド、寝具の持ち込みは自由ですが、介護ベッド等を希望される方にはホームで準備しています。家族の希望で、本人が使っていた馴染みのタンス等を持ち込み、利用者が居心地良く過ごせるように工夫しています。仏壇や四季の造花、手作りの作品、写真、雑誌等を持ち込んでいる方もいます。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーに加え、居室やわかりやすい表示、出来ることへの声かけ、促しを行っている。		